

品などの、器械史の位置づけや、広く普及し、多くの医師により改良改造された器械の場合、どの時点をオリジナルとするのか、という分類の問題。さらに完全にレストアすべきかどうかを含め、修理、保守管理の問題。中でも大きなものは手術室小部屋ほどになる器械の、大きさ、重量、並びに数量に関わる保存スペースの問題は深刻である。筆者も既に個人として保守管理および整理の段階を超えた数量の蒐集品に苦慮している。これらの保守管理のためには特に湿度、温度が一定に保てる保管場所が、整理のためには器械史に造詣の深い人物が必要となる。私的コレクションは将来、文化財として一般に公開すべきであろう。そのためには博物館的な施設の設定運営、財団法人化を痛感するが、その意味で個人での保存能力は極めて低く限度があることを痛感している。そこで、所蔵器械の一つ一つが三次元的にビジュアル化され、器械の使用法などを含め多くの項目によって検索ができるデータベースを備えたバーチャルミュージアムとしてCD-ROMの作成を考え完成に近づけたい。

9 裏庭の書庫の管理と蔵書の寄贈

唐 沢 信 安

医学史の勉強と、地域医療の一端を担う医師として老令化した私の健康の管理の二点は、何時もバランスをとるために苦労する毎日である。

医学史の資料にしても、余り多くなると、その管理と保存に思わぬ困難な状態を招いてしまう。そこで毎朝、天候と湿度を見ては、換気扇か、クーラーのいずれかのスイッチを入れるのが、日課として強いられる。

裏庭の書庫には、約十数年かけて集めた、済生学舎に関する資料が保存されているが、その中には、全国から集めた多くの学生達の筆記ノートや教科書、長谷川泰や部下の教師達の書簡を含めて数百点の貴重な資料の数々が分類されて山積となっている。

特に、学生達によって使用された明治期の「顕微鏡」や「細菌学・病理学の標本」を個人で後世に伝えることは、は困難となってきた。

自分にとって大切な資料も、その価値を認めない人々にとっては、単なる紙屑の山である。そこで、自分の生命の充実した内に、この古書及び資料を寄贈することにした。

(一) 東京慈恵会医科大学への寄贈

大滝紀雄先生に御願いして、本年(一九九八)三月十七日、高木兼寛先生の書、初期の医学生生の筆記ノート・アンダーソンの描いたと思われる人体解剖書・成医会講習所の学生と、海軍軍医学学校の学生の並んだ写真等を、直接岡村哲夫学長先生にお渡しして慈恵会医科大学の資料館に納めさせていただいた。

(二) 神戸大学医学部に寄贈

岡田安弘生理学教授の御来訪を受け、神戸医学校生「池田宇之助」の講義筆記ノート(明治十八年)の内科学・外科学等八冊を寄贈し、神戸大学医学部五十年史に掲載された。

(三) 日本医科大学校史編纂室へ寄贈

数百冊の「済生学舎」の資料、全てを寄贈して、自分の医学史学研鑽の指標としたい。

10 古河市にある医学資料と保存

川島 恂 二

関東平野の中心古河の地は万葉東歌あづまうたの頃から平安・鎌倉・室町へと武士蟠踞の地であり、室町末から足利氏鎌倉幕府が古河に逃避して来た為に、初代足利成氏しげよしから二代政氏まさよしの移行期に阪東足利学校から医聖田代三喜を迎えた。

それで戦乱関西を避けて足利学校に学んでいた曲直瀬道三が学成って、京への帰路古河の三喜に入門して李朱医学を学んだ。

古河には三喜の墓と、三喜・道三とが死の別れに二人の涙を硯に落として書いた医書「涙墨紙」のみが残った(古河歴史博物館蔵)。三喜の木像・過去帖は古河市一向寺にある。

江戸時代徳川幕府となると岩槻・古河・宇都宮は日光街道の將軍宿城の重要拠点となった為に多数の有力譜代大名が交代で来城し、初代小笠原から松平(熊沢蕃山の墓)、奥平